

(地方職員共済組合理事長、立教大学特任教授、元山梨県総務部長)



2000年のVF甲府



私がこれから申し上げることは、とにかく総合球技場を早く造って欲しい、ということです。偏っていると思われるかもしれませんが、ある意味、偏っています。VF 甲府のサポーターの一人として、ぜひ作って欲しいという当然の気持ちをもっていますから当然です。が、そのことを前提にしても、総合球技場の意味を、若干勘違いしておられる方も多いんじゃないか、と思ってお話し申し上げます。

この左側の写真は 2000 年のヴァンフォーレ (V F) 甲府です。見てほしいのはプレーじゃありません。選手の胸と後ろの観客席です。私は、その頃、

山梨県庁勤務でしたので、ホームゲームはほぼ毎試合行っておりましたが、スポンサーがついてない、後ろのスタンドを見るとガラガラ、という状況だったのです。ワールドカップの 2 年前で、W 杯における日本のエースは中田英寿君（甲府市出身）であることが分かっているのに V F 甲府は潰れそうになっていた。これはいかんということで、上の左下の写真のとおり、深沢孟雄社長さんが天野建知事に支援をお願いし、それを契機に上の真ん中のとおり会員サポーターの存続署名募集も始まりました。そして、上の写真の右下のとおり J リーグから川渕チェアマンも来て支援してくれました。その結果、右の写真のとおり、主要株主 4 者（山日 Y B S、山梨県、甲府市、韮崎市）が集まって年間続けましょうということになった。その時に平均入場者数 3000 人などの目標を立てました。結果として見事に目標を達成したわけです。が、3000 人という目標は実質的に前年の倍以上、「解散のための理由作り」とも言われたと、2013 年のヴァフォーレ後援会会報「ヴァンすぽ」は書いています。



主要四株主の合意



- 3 収支ギャップを埋めるため、観客動員数、クラブサポーター数、広告収入等について、下記の目標を定める。
- (1) 2000 年度（平成 12 年度）に 1,850 人程度であった平均観客動員数を 2001 年度（平成 13 年度）は 3,000 人以上に引き上げることを目標とする。
 - (2) クラブサポーターについて、平成 12 年度までの 3,000 人弱から、5,000 人以上とすることを目標とする。
 - (3) 県内企業等に対し、広告の掲出、法人会員への加入、ヴァンフォーレ甲府の入場券やグッズの営業活動への利用等について、主要株主がクラブに協力して協賛を要請していくこととし、広告料収入等で 5,000 万円程度を確保できるよう努める。



VF甲府の新しい経営陣のスタート





地域密着の営業活動



いです、ずっと応援します」と言いまして、言ったことは守らなきゃいかんと、そんな関係で今でもよく試合を見に来ている次第です。その時、海野さんと一緒に VF 甲府に来られたのが、今の社長の興水さんです。大変なご苦労をおかけしました。

当時、私は、この平均入場者 3000 人の目標を作った際、だいたい 8 割方はいけるんじゃないかと思っていました。で、海野さんが社長になった時には、これで「9 割ぐらいは大丈夫」と思いました。海野さんがやり手で、ガッツのある人であることをよく知っていましたから。実際、その後は私がやるべきことは、そして実際にしたことは、海野さんがやることを黙って見守って、応援するだけでした。皆さんご存じのように、うちわセールスをやるとか、ボランティアをお願いするとか、小さい看板をいっぱい立てるとか、本当にアイデアあふれることを一生懸命海野さんは一杯やって下さいました。山梨の小瀬はボランティアが多いことでも有名です。クラブの地域貢献活動がきっかけになって VF を応援している人が多いことでも知られています。そして、見事に目標を達成された訳です。前述の「ヴァンすぽ」には、存続三条件について「いま冷静に振り返ってみると、これらの条件は『プロクラブとして最低限必要なこと』とも書いていただいています。そして、山梨でも達成できる数字だということも、今になれば分かります。なお、この平均観客動員数 3000 人は、今、J リーグの J 2 昇格の基準の一つとなっています。地域に根差すクラブでないと J 2 に昇格できないということになっている訳です。

その後の VF の順位の推移です。最初は 10 チーム中 10 位、2000 年は 11 チーム中 11 位、2001 年は 12 チーム中 12 位と 3 年間連続の最下位でした。しかし、経営危機の後、大木監督のもと、2005 年の入

さんは指名直後にあいさつにこられた時、本当に怒っておられました。「何でおれがこんなことしなきゃならないんだ」と机を叩いて怒っておられました。私は「海野さん、ここで VF 甲府を立て直せば、自分の天下ですよ。山梨だけでなく全国で有名になりますよ。」となだめたんですが、海野さんは納まらない。「そんなこと言ったってどうせそのうち東京に帰って、見向きもしないんだろう。」と言い、それに私は、「いや、そんなことな



ボランティア



地域貢献活動





VF甲府の順位の推移

Year			1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000
J1										
J2									10/10	11/11
J3										
Year	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
J1						15/18	17/18			
J2	12/12	7/12	5/12	7/12	3/12			7/15	4/18	2/19
J3										
Year	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
J1	16/18		15/18	13/18	13/18	14/18	15/18			
J2		1/22								
J3										

れ替え戦を経て 2006 年に J 1 に昇格しました。2008 年に J 2 に落ちて、また上がって、2011 年に J 1 昇格、一年で J 2 に落ちて、また 1 年で J 2 優勝、2013 年に J 1 に昇格して、それ以来、5 年連続 J 1 にいます。本当に奇跡に近い成績です。チーム、サポーターの努力の賜です。しかし、私は正直言うと、一般の県民

の皆さんが、5 年連続 J 1 にいて J 1 にいるのが当たり前、危機感が薄れていて、また第 2 のピンチがくるのではと心配しています。皆さんがこの、5 年連続 J 1 にいるのは奇跡だと言うことを、必ずしもご理解いただいていないと思うのです。

申し上げたいのは、この VF 甲府の奇跡は、J リーグから見ると希望の星であるということです。中小県でも J 1 チームを運営できるという目標になっているのです。山梨県と VF 甲府が目標になっている、それだけに恥ずかしいことはできないのではないのでしょうか。J リーグには、VF 甲府に足を向けて寝られないという雰囲気があります。それはなぜか。J リーグは発足当初から日本中、中小の県までサッカークラブをつくっていくという構想を持っていました。ところが、VF 甲府の J 2 参入当時、景気が悪くなって、横浜フリューゲルスが解散をしたりしていましたので、全国に広がるかどうか不安に感じていたんですね。J 1 のクラブ数を見ていただくと、18 クラブあったものが 1999 年に 16 と 10 で J 1 と J 2 に分かれます。分かれた後、J 2 のチーム数は 2005 年まで 12 クラブだった。全然増えていません。明らかに VF 甲府の経営危機を見て、中小の県は J リーグのクラブを持てる訳がないと感じていた、全国でそう思っていたん



Jリーグのチーム数の推移

Year			1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000
Total			10	12	14	16	17	18	26	27
J1			10	12	14	16	17	18	16	16
J2									10	11
J3										
Year	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
Total	28	28	28	28	30	31	31	33	36	37
J1	16	16	16	16	18	18	18	18	18	18
J2	12	12	12	12	12	13	13	15	18	19
J3										
Year	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
Total	38	40	40	52	53	56	57			
J1	18	18	18	18	18	18	18			
J2	20	22	22	22	22	22	22			
J3				12*	13*	16**	17**			

* The number of J3 teams in 2014 and 2015 includes U-22 J.League Select Team.

** The number of J3 teams in 2016 and 2017 includes F.C.TOKYO U-23, Gamba Osaka U-23 and Cerezo Osaka U-23.

ところが、VF 甲府が 2005 年に J 1 に上がるのを見た後、2006 年以降に増え始め、2014 年には J 1 から J 3 まで合わせて 52 クラブ、現在では 57 クラブある。26 だった 1999 年の倍以上になった。それは VF がプロビンチャ（県民クラブ）として立ち直って目標となってやってくれたおかげ

げだ、と思っている。さっきご紹介した2013年の「ヴァンすぽ」で、「条件をクリアし、着実に成長していくヴァンフォーレ甲府の姿は、太企業のバックアップがないクラブのサンプルケースとなり、全国の小さなクラブに勇気を与えたことは、想像に難くありません。それが、来年J3をスタートさせるきっかけになったのみならず、全国にたくさんのJリーグを目指すクラブを誕生させることになったのです。」と書いているとおりです。しかも今、5年連続J1。

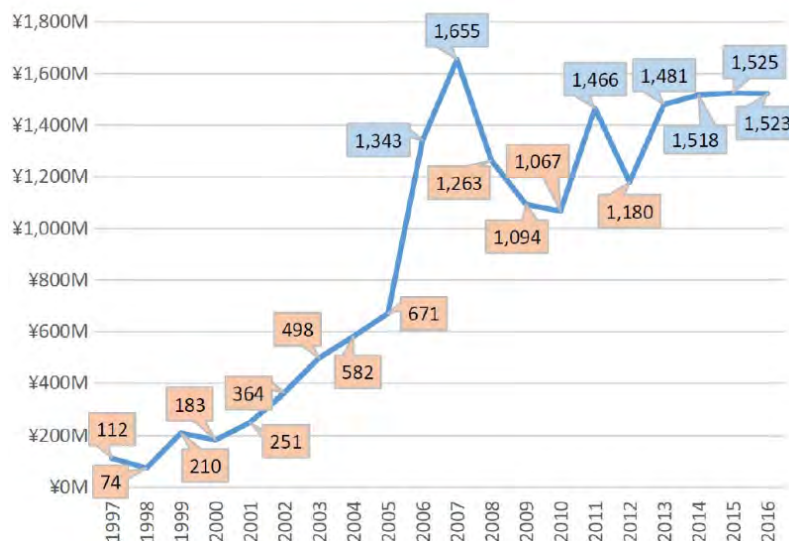
でもVFの経常収益を見て下さい。経常収益はJ1に上がった年に13億に上がって次の年に16億、これがピークです。その後経常収益は15億前後で推移しています。

これには平均観客動員数も影響しているんですね。ピークは2007年の1万3000人平均。現在は国立競技場が建て替えのためホームゲームに使えなくなっていることもあって、1万人前後で推移していますね。何で1万人ちょっとにとどまっているか。一つはスタジアムのキャパシティです。小瀬の競技場は1万5,000人とされていますけれども、シートが独立していないフラットなシートのため実際にはそんなに収容できないんですね。それともう一つ、見づらいということがあります。それらは、後からご説明します。

さっき私は5年連続J1を奇跡だと言いました。厳しい現実ですが、通算すれば、Jチームの成績は、その経済規模に比例します。それでも大クラブがJ2降格したり、VF甲府が5年連続してJ1でプレーしたりと番狂わせがあるのが面白いところですが、やはり経済規模が最も大きな要因であることは否定できません。VF甲府の経常収益が15億円だと言いました。これはJ1のチームの中で格段に離れて最低です。2016年でVF甲府の次に少なかったコンサドーレ札幌、それでもJ2時代に19億円ありました。VF甲府の平均入場者数1万人は最下位ではありませんが、ビッグクラブに比べるとかなり低い



経常収益の推移



平均観客動員数の推移



状況です。VF甲府を下回る柏レイソルは入場料単価が違います。VF甲府の入場料単価は最も安い方に属しています。そういう中で15位にいる。残り3試合、もちろん私だって、勝って残留を果たしてもらいたいと強く、強く願っています。しかし、こういう風な残留争いができる順位にいること自体、これはもう奇跡なのです。そのことは、認識なくてはなりません。15億円で5年連続J1にいること、比べて下さい。例えば名古屋グラン

J1 クラブの順位と経常収益、平均入場者数

2017	TOP	bottom	Club Name	Operational Revenue 2016 Million Yen	Average Home Game Attendance 2016
J1	J1	J1	鹿島アントラーズ	5,582	19,103
J1	J1	J2	川崎フロンターレ	4,254	22,136
J1	J1	J2	セレッソ大阪	3,008	12,509
J1	J1	J2	柏レイソル	2,874	10,728
J1	J1	J1	横浜Fマリノス	4,696	24,004
J1	J1	J2	ジュビロ磐田	3,303	14,611
J1	J1	J2	浦和レッズ	6,606	36,935
J1	J1	J2	ヴィッセル神戸	3,865	17,018
J1	J1	J2	サガン鳥栖	2,766	12,636
J1	J1	J2	ガンバ大阪	5,146	25,342
J1	J1	J2	FC東京	4,541	24,037
J1	J1	J2	ベガルタ仙台	2,285	15,467
J1	J1	J2	北海道コンサドーレ札幌	1,902	14,559
J1	J1	J2	清水エスパルス	3,341	11,274
J1	J1	J2	ヴァンフォーレ甲府	1,523	10,833
J1	J1	J2	サンフレッチェ広島	3,794	15,464
J1	J1	J2	大宮アルディージャ	3,203	11,814
J1	J1	J2	アルビレックス新潟	2,908	21,181

パスは J 2 にいますが、2016 年の財政規模は 47 億円ですよ。ジェフ千葉だって 20 数億円です。J 1 J 2 J 3 を合わせて、経常収益の順番にすると、甲府は J 2 の 6 番目です。入場者数でも J 2 の 3 番目にしかならないんです。それなのに、J 1 で残留争いをしている、自力残留の位置にいる、それだけのコトを今、やっているんです。皆さん J 1 残ってくれないかと思っていて、J 2 に落ちたら困るなど思っているかもしれません。もちろん私も同感です。ただ、私は、V F 甲府のサポーターの皆さん、県民の皆さんには、理解してほしい。この財政規模では、いつかは J 2 に落ちることもありうるんだと。この規模で J 1 に 5 年連続いること自体が奇跡だと思っています。いただかなければいけません。それは選手、スタッフ、サポーターが起こしてくれた奇跡です。なので、もし落ちたとしても、そんなことは起きてほしくありませんが、それでも経営陣とか、誰かの責任を問うということはあり得ない話なんです。だってそうでしょう、「奇跡を起こせない責任をとれ」なんて、ありえないでしょう。

そんな厳しい現状ですが、希望はもちろんあります。悲観する必要もありません。ここまで大きくなった V F 甲府です。もし J 2 に落ちてても今の規模の県民の皆さん、サポーターの皆さん

支援を続け、強化をしていければ、財政的にみて 6 位以内には入るレベルにあります。入場者数から言えば J 2 の 3 位には入るレベルにあります。財政的に言っても、入場者数から言っても、6 位以内に入る力はある。そうすれば必ず毎年、J 1 昇格へチャレンジするチャンスが来るはず。ただ、今まで、J 2 に降格したときの財政規模は、1 2 億円くらいですから、そうなったら J 2 の 1 0 位くらいになってしまう。何とか、1 5 億円くらいの規模は維持してほしい。

一方で、J 1 に残り続けるくらいの水準まで、この 15 億円を増やすことができるか、と言われますと、J 1 に残り続けるには最低 30 億円といわれていますので、かなり厳しいかと思います。しかし、山梨県の V F 甲府が、J 1 へ度々昇格し、J 2 では並みいる山梨県より大きな県のクラブを抑えて、上位にいる、それは、痛快なことではありませんか。でも、危機感があります。中規模県の J 2 J 3 の後発クラブが努力を重ね、環境整備を進めています。その中で、今の地位を維持するには、V F 甲府も環境整備が必要です。このままでは、お隣の松本山雅 F C に越されてしまうのではないかと、そんな危機感も持っていることをお伝えしながら、スタジアムの話に移ります。



サポーターの聖地山梨中銀スタジアムバックスタンドからの眺め

陸上競技のトラックがあると、Jリーグのスタジアムのゴール裏で最長45mもピッチから離れ、試合が見づらく、選手もプレーしにくい。

J.league News 特別版 スタジアムの未来



くれているんです。

一方で、これが柏レイソルのホームのバックスタンドです。ゴール裏との距離を見ていただけませんか、こんなに少ししかありません。これ、同じゴール裏からみても、別な競技に見えかねないと思いませんか。それくらい VF 甲府のサポーターは献身的な応援をしてくれているんですが、それに頼っていていいのでしょうか。

下の写真は、メインスタンドから見た時の感じを、中銀スタジアムと日立



サポーターの聖地バックスタンド

サッカースタジアムはどの角度からも選手と観客の距離が近く、一体感が生まれる。芝生の緑、カラーコントラストの効いた両チームのユニフォーム、プレーに反応して波打つ観客、すべての臨場感が一つの画面から伝わってくる。

J.league News 特別版 スタジアムの未来



メインスタンドからの眺め



台の柏のスタジアムと比較してみました。上は、小瀬の中銀スタジアムのロイヤルボックスから撮った写真ですが、こんな感じで、ピッチが遠いです。日立柏台は、セアウェイ側からでも、こんな感じで、選手が目の前を走ります。2005年の入れ替え戦では、バレー選手がゴールを入れるたびにアウェイ席にいた我々サポーターのすぐ近くまで来てく

れたものです。

右の写真は上が、ジェフ千葉の本拠地のフクダ電子アリーナです。Jリーグの基準に沿って、全席に屋根がついているのですが、屋根がついていると、サポーターのチャント（歌）も大きく響き、選手を鼓舞し、スタジアムに一体感を作り出します。

なお、末尾に資料として付けていますが、Jリーグにはスタジアムの基準がありません。基本的に今から造るものはスタンドに全部屋根を付けて下さい、ということになっています。席は甲府のようにフラットの席ではなくて一つ一つの席にして下さいとなっている。それはいつかは守らなきゃいけないわけです。この写真は、ずっと前に、天皇杯で勝ち進み、ベガルタ仙台とユアテックスタジアム仙台で対戦したときの写真です。このように屋



サポーターの聖地バックスタンドのメインからの距離



Jリーグ基準を満たした総合球技場でのVFKサポーター



雨の日のアウェイ・サポーター（神戸戦）



根があれば、この間のような大雨でも、サポーターも雨に濡れないで見ることができる。そして、サポーターの声も響きます。

左は、先日の大雨の日に来ていただいた神戸のサポーターの様子です。残念ながら、現在のスタジアムでは、大変なご苦労をおかけしてしまいました。私は、東京から電車でも来ること多いので、試合終了後には、そうしたサポーターの方々と甲府駅で会おうの



雨の日のサポーター(神戸戦)



瀬の中銀スタジアムは、雨には勝てません。雨だと、やはり観客数は減り、この前のような大雨だと、5000人しか来ていただけない、ということになってしまいます。

もう一つ最後に見ていただきたいのは下の表です。「○」が付いているのはサッカー専用スタジアムないし総合球技場をホームのスタジアムにしているところです。J1ではほとんどが○が付いていることが分かります。最近、やっているところはほとんどが専用スタジアムなんです。そして、J3のクラブでサッカー専用スタジアムな

ですが、各地から来たサポーターの方々は、甲府の駅でいっぱいお土産を買って帰っていただいています。経済にも相当貢献していただいているんですが、遠くから折角来られる方々に、こんな苦勞はおかけしたくないと思われませんか。

で、左は我がサポーターの姿ですが、屋根がないと、こういうことになる。晴れていれば、V F 甲府の試合は、対戦相手に関わらず比較的安定したそれなりの観客数がありますが、残念ながら、現在の小



中銀スタジアム入場者数

2017年8月27日(日) 川崎F 曇 28.7°C	10,807人
2017年9月9日(土) 清水 晴 26.5°C	12,683人
2017年9月23日(土) 横浜FM 晴 24.1°C	12,049人
2017年10月15日(日) FC東京 雨 19.6°C	8,643人
2017年10月29日(日) 神戸 雨 14.4°C	4,692人



Jクラブのスタジアムとチケット最高価格

2017	TOP	bottom	Club Name	最大定員	チケット 最高金額 当日	路上 トラック 敷	2017	TOP	bottom	Club Name	最大定員	チケット 最高金額 当日	路上 トラック 敷	2017	TOP	bottom	Club Name	最大定員	チケット 最高金額 当日	路上 トラック 敷
J1	J1	J1	鹿島アントラーズ	37,496	8,000	○	J2	J1	J2	湘南ベルマーレ	15,732	6,200	×	J3	J2	J3	栃木SC	15,325	3,000	○
J1	J1	J2	川崎フロンターレ	26,827	6,500	×	J2	J2	J2	ファルエン長崎	20,258	4,500	×	J3	J3	J3	アスルクロ沼津	5,104	2,500	N/A
J1	J1	J2	セレッソ大阪	17,892	6,300	○	○	J1	J2	名古屋グランパス	20,223	8,300	△	J3	J3	J3	フラウブリッツ秋田	4,992	2,000	○
J1	J1	J2	柏レイソル	15,109	5,600	○	J2	J1	J2	アビスパ福岡	22,331	9,500	○	J3	J3	J3	カターレ富山	18,588	2,400	×
J1	J1	J1	横浜Fマリノス	72,081	7,800	△	J2	J1	J2	松本山雅FC	20,336	6,000	○	J3	J3	J3	鹿児島ユナイテッドFC	5,386	1,500	×
J1	J1	J2	ジュビロ磐田	15,165	7,500	○	○	J1	J2	東京ヴェルディ	48,999	5,500	×	J3	J3	J3	FC琉球	10,189	1,800	×
J1	J1	J2	浦和レッズ	62,010	6,300	○	J2	J1	J2	徳島ヴォルティス	17,924	5,000	×	J3	J3	J3	AC長野パルセイロ	15,515	3,500	○
J1	J1	J2	ヴィッセル神戸	28,425	7,300	○	J2	J1	J3	大分トリニータ	31,997	5,000	×	J3	J3	J3	藤枝MYFC	5,056	2,000	○
J1	J1	J2	サガン鳥栖	24,130	6,000	○	J2	J1	J2	横浜FC	15,440	5,700	○	J3	J2	J3	ギフアンツ北九州	15,300	6,000	○
J1	J1	J2	ガンバ大阪	39,694	15,000	○	J2	J1	J2	ジェフユナイテッド千葉	19,470	5,700	○	J3	J3	J3	福島ユナイテッドFC	6,060	2,500	×
J1	J1	J2	FC東京	48,999	6,500	×	J2	J2	J2	水戸ホーリーホック	10,152	3,100	×	J3	J3	J3	SC相模原	6,291	3,000	×
J1	J1	J2	ベガルタ仙台	19,694	7,700	○	J2	J2	J2	フジアノ岡山	15,479	3,100	×	J3	J3	J3	Y.S.C.C.横浜	15,440	2,000	○
J1	J1	J2	北海道コンサドーレ札幌	39,856	5,100	○	J2	J1	J2	モンテディオ山形	20,784	5,100	×	J3	J3	J3	グルージャ盛岡	4,946	2,500	○
J1	J1	J2	清水エスパルス	20,248	6,300	○	J2	J1	J2	京都サンガFC	20,588	6,170	×	J3	J2	J3	ガイナレ鳥取	11,999	3,000	○
J1	J1	J2	ヴァンフォーレ甲府	15,859	4,700	×	J2	J2	J3	FC町田ゼルビア	10,328	4,000	×							
J1	J1	J2	サンフレッチェ広島	36,894	5,900	×	J2	J2	J2	愛媛FC	20,919	3,800	×							
J1	J1	J2	大宮アルディージャ	15,491	6,000	○	J2	J2	J2	FC岐阜	16,300	4,500	×							
J1	J1	J2	アルビレックス新潟	41,684	4,600	×	J2	J2	J2	ヴェーガン金沢	20,261	3,500	×							
							J2	J2	J2	カマタマーレ讃岐	22,338	3,500	×							
							J2	J2	J2	ロアッソ熊本	30,684	3,500	×							
							J2	J2	J3	レノファ山口	15,115	4,500	×							
							J2	J2	J2	ザスパクサツ群馬	15,190	3,500	×							

いし総合球技場が多いこともお気づきになるかと思いますが。こうしたクラブがそのうちに、底上げしてきてJ2で争うようになるでしょう。下の写真の左下を見ていただきたいんですが、これはJ3のクラブ・長野パルセイロのために長野市が造ったスタジアムです。右下は、既に、サッカー専用の松本山雅F Cのアルウィンです



スタジアム



長野県松本平広域公園アルウィン



The Pride and Joy of Supporting the Regional J.League Club



に飛躍するという夢を持つことができます。現に、昨年、VF甲府のU12はダノンカップというサッカーU12の世界大会で準優勝をしたではありませんか。ぜひ、早期に総合球技場の建設をしていただき、夢を大きく広げて

できるだけ早く専用スタジアムを造ることがサポーターを増やしていくことにもつながります。また、県外からもたくさんお客さんが来るようになります。そして、そういうチームがあれば、将来山梨の子供たちがサッカー選手になり、日本代表になったり世界



いけるようにしていただけるとありがたいと考えております。ご清聴ありがとうございました。

筆者注) ご興味のある方は、Jリーグの下記の Website にある J.LEAGUE NEWS 特別版『スタジアムの未来』をご覧くださいければと思います。

<https://www.jleague.jp/aboutj/stadium/00.html>

(2017 年 11 月開催の「山梨総合研究所創立 20 周年記念フォーラム」での基調講演から総合球技場と V F 甲府に関係した部分を抜粋し、加筆、再構成しました。)



Jリーグクラブの営業収益と平均入場者数(営業収益順)

2017	TOP	bottom	Club Name	Operational Revenue 2016 Million Yen	Average Home Game Attendance 2016	2017	TOP	bottom	Club Name	Operational Revenue 2016 Million Yen	Average Home Game Attendance 2016	2017	TOP	bottom	Club Name	Operational Revenue 2016 Million Yen	Average Home Game Attendance 2016
J1	J1	J2	URAWA REDS	6,606	36,935	J2	J1	J2	MATSUMOTO YAMAGA F.C.	1,935	13,631	J2	J2	J3	ZWEIGEN KANAZAWA	612	4,179
J1	J1	J1	KASHIMA ANTLERS	5,582	19,103	J1	J1	J2	HOKKAIDO CONSADOLE SAPPORO	1,902	14,559	J2	J2	J2	MITO HOLLYHOCK	589	5,365
J1	J1	J2	GAMBA OSAKA	5,146	25,342	J2	J1	J2	AVISPA FUKUOKA	1,836	12,857	J2	J2	J2	THESPA KUSATSU GUNMA	522	4,744
J2	J1	J2	NAGOYA GRAMPUS	4,713	17,729	J2	J1	J2	KYOTO SANGA F.C.	1,743	6,524	J3	J3	J3	KATALLER TOYAMA	515	3,608
J1	J1	J1	YOKOHAMA F. MARINOS	4,696	24,004	J2	J1	J2	SHONAN BELLMARE	1,627	11,530	J3	J2	J3	GAINARE TOTTORI	412	1,898
J1	J1	J2	F.C. TOKYO	4,541	24,037	J1	J1	J2	VENTFORET KOFU	1,523	10,833	J3	J3	J3	KAGOSHIMA UNITED FC	377	3,665
J1	J1	J2	KAWASAKI FRONTALE	4,254	22,136	J2	J1	J2	MONTEDIO YAMAGATA	1,497	6,254	J3	J3	J3	FUKUSHIMA UNITED FC	326	1,678
J1	J1	J2	VISSLER KOBÉ	3,865	17,018	J2	J1	J2	TOKUSHIMA VORTIS	1,443	4,565	J3	J3	J3	BLAUBLITZ AKITA	288	2,425
J1	J1	J2	SANFRECCCE HIROSHIMA	3,794	15,464	J2	J1	J2	TOKYO VERDY	1,391	5,402	J3	J3	J3	S.C. SAGAMIHARA	263	4,344
J1	J1	J2	SHIMIZU S-PULSE	3,341	11,274	J2	J2	J2	FAGIANO OKAYAMA	1,271	10,017	J3	J3	J3	FC RYUKYU	194	1,561
J1	J1	J2	JUBILO IWATA	3,303	14,611	J2	J1	J2	YOKOHAMA FC	1,064	4,892	J3	J3	J3	Y.S.C.C. YOKOHAMA	189	1,018
J1	J1	J2	OMIYA ARDIJA	3,203	11,814	J2	J2	J2	FC GIFU	932	5,662	J3	J3	J3	FUJIEDA MYFC	165	1,531
J1	J1	J2	CEREZO OSAKA	3,008	12,509	J2	J2	J3	RENOFA YAMAGUCHI FC	880	6,654	J3	J3	J3	GRULLA MORIOKA	142	1,188
J1	J1	J2	ALBIREX NIIGATA	2,908	21,181	J3	J2	J3	GIRAVANZ KITAKYUSHU	855	3,224	J3	J3	J3	AZUL CLARO NUMAZU	N/A	N/A
J1	J1	J2	KASHIWA REYSOL	2,874	10,728	J2	J1	J3	OITA TRINITA	797	7,771						
J1	J1	J2	SAGAN TOSU	2,766	12,636	J2	J2	J2	VVAREN NAGASAKI	749	4,625						
J2	J1	J2	JEF UNITED CHIBA	2,556	10,292	J2	J2	J2	ROASSO KUMAMOTO	720	5,543						
J1	J1	J2	VEGALTA SENDAI	2,285	15,467	J3	J3	J3	AC NAGANO PARCEIRO	687	5,018						
						J3	J2	J3	TOCHIGI SC	639	4,917						
						J2	J2	J2	EHIME FC	630	4,089						
						J2	J2	J3	FC MACHIDA ZELVIA	626	5,123						
						J2	J2	J2	KAMATAMARE SANUKI	613	3,686						



Jリーグクラブの営業収益と平均入場者数(平均入場者数順)

2017	TOP	bottom	Club Name	Operational Revenue 2016 Million Yen	Average Home Game Attendance 2016	2017	TOP	bottom	Club Name	Operational Revenue 2016 Million Yen	Average Home Game Attendance 2016	2017	TOP	bottom	Club Name	Operational Revenue 2016 Million Yen	Average Home Game Attendance 2016
J1	J1	J2	URAWA REDS	6,606	36,935	J2	J1	J2	SHONAN BELLMARE	1,627	11,530	J2	J2	J3	ZWEIGEN KANAZAWA	612	4,179
J1	J1	J2	GAMBA OSAKA	5,146	25,342	J1	J1	J2	SHIMIZU S-PULSE	3,341	11,274	J2	J2	J2	EHIME FC	630	4,089
J1	J1	J2	F.C.TOKYO	4,541	24,037	J1	J1	J2	VENTFORET KOFU	1,523	10,833	J2	J2	J2	KAMATAMARE SANUKI	613	3,686
J1	J1	J1	YOKOHAMA F. MARINOS	4,696	24,004	J1	J1	J2	KASHIWA REYSOL	2,874	10,728	J3	J3	J3	KAGOSHIMA UNITED FC	377	3,665
J1	J1	J2	KAWASAKI FRONTALE	4,254	22,136	J2	J1	J2	JEF UNITED CHIBA	2,556	10,292	J3	J3	J3	KATALLER TOYAMA	515	3,608
J1	J1	J2	ALBIREX NIIGATA	2,908	21,181	J2	J2	J2	FAGIANO OKAYAMA	1,271	10,017	J3	J2	J3	GIRAVANZ KITAKYUSHU	855	3,224
J1	J1	J1	KASHIMA ANTLERS	5,582	19,103	J2	J1	J3	OITA TRINITA	797	7,771	J3	J3	J3	BLAUBLITZ AKITA	288	2,425
J2	J1	J2	NAGOYA GRAMPUS	4,713	17,729	J2	J2	J3	RENOFA YAMAGUCHI FC	880	6,654	J3	J2	J3	GAINARE TOTTORI	412	1,898
J1	J1	J2	VISSSEL KOBE	3,865	17,018	J2	J1	J2	KYOTO SANGA F.C.	1,743	6,524	J3	J3	J3	FUKUSHIMA UNITED FC	326	1,678
J1	J1	J2	VEGALTA SENDAI	2,285	15,467	J2	J1	J2	MONTEDIO YAMAGATA	1,497	6,254	J3	J3	J3	FC RYUKYU	194	1,561
J1	J1	J2	SANFRECCE HIROSHIMA	3,794	15,464	J2	J2	J2	FC GIFU	932	5,662	J3	J3	J3	FUJIEDA MYFC	165	1,531
J1	J1	J2	JUBILO IWATA	3,303	14,611	J2	J2	J2	ROASSO KUMAMOTO	720	5,543	J3	J3	J3	GRULLA MORIOKA	142	1,188
J1	J1	J2	HOKKAIDO CONSADOLE SAPPORO	1,902	14,559	J2	J1	J2	TOKYO VERDY	1,391	5,402	J3	J3	J3	Y.S.C.C. YOKOHAMA	189	1,018
J2	J1	J2	MATSUMOTO YAMAGA F.C.	1,935	13,631	J2	J2	J2	MITO HOLLYHOCK	589	5,365	J3	J3	J3	AZUL CLARO NUMAZU	N/A	N/A
J2	J1	J2	AVISPA FUKUOKA	1,836	12,857	J2	J2	J3	FC MACHIDA ZELVIA	626	5,123						
J1	J1	J2	SAGAN TOSU	2,766	12,636	J3	J3	J3	AC NAGANO PARCEIRO	687	5,018						
J1	J1	J2	CEREZO OSAKA	3,008	12,509	J3	J2	J3	TOCHIGI SC	639	4,917						
J1	J1	J2	OMIYA ARDIJA	3,203	11,814	J2	J1	J2	YOKOHAMA FC	1,064	4,892						
						J2	J2	J2	THESPA KUSATSU GUNMA	522	4,744						
						J2	J2	J2	VVAREN NAGASAKI	749	4,625						
						J2	J1	J2	TOKUSHIMA VORTIS	1,443	4,565						
						J3	J3	J3	S.C. SAGAMIHARA	263	4,344						



Jリーグのスタジアムの基準(2017年度)

必須とされる設備		内容	検査基準	
I ： スタジアム規模	1.入場可能数 ※	J1は15,000人以上、J2は10,000人以上(芝生席はカウントしない)	○	
	2 ： 座席	(1)観客席 ※	椅子席で、10,000席以上の座席があること(ベンチシートは1席あたりの幅を45cm以上とする)	○
			全席個席であること	C
			どの座席からも、ピッチ全体が見渡せること	○
			すべての座席に番号を分かりやすく付けること	★★★
			高密度Wi-Fiが利用できること	★★★
		(2)車椅子席	介助者の椅子を備えること	○
			観戦の際の安全が確保されていること	○
			高密度Wi-Fiが利用できること	★★★
		(3)VIP席	メインスタンド中央部でスタジアム全体が見渡せる位置に屋根付きで個席50席以上設置すること	★★★
			80席以上設置すること	C
			高密度Wi-Fiが利用できること	★★★
		(4)マッチコミッショナー席	メインスタンド中央部でスタジアム全体が見渡せる位置に屋根付きで設置すること	○
			机付きで4名着席でき、ピッチの笛が聞こえること(マッチコミッショナー、補助員、審判アシッサー、副審アシッサー)	○
			テレビモニターを設置すること	○
			LAN回線、共聴回線を設置すること	C
		(5)記者席	メインスタンド中央部でスタジアム全体が見渡せる位置に屋根付きで80席以上設置すること	★★★
			ノートパソコン、ノートが置ける十分な広さの机と電源を設置すること	○
			Wi-Fiが利用できること	★★★
	3.屋根	新設及び大規模改修を行うスタジアムについては、原則として屋根はすべての観客席を覆うこと	○	
		すべての観客席を覆うこと	C	
		屋根または照明に雷保護設備を備えていること	○	
	4.照明	ピッチ内のいずれの個所においても照度1,500ルクス以上の明るさを保持し、均一であること	○	